



## 会派視察研修報告書

令和 5 年 8 月 1 8 日

碧南市議会議長 様

会派名 想政会

代表者名

鈴木良和

下記のとおり、視察（研修）を実施したので報告します。

なお、参加者議員 6 人分の視察研修成果報告書を添付いたします。

参加議員	鈴木良和、裨宜田拓治、新美交陽、山中謙治、小林晃三 生田充夫
日 時	令和 5 年 7 月 1 9 日（水）～ 令和 5 年 7 月 2 1 日（金）
視 察 先	①北海道夕張郡由仁町（及び株式会社チュプチニカ） ②公益財団法人 室蘭テクノセンター ③札幌市子ども発達支援総合センター「ちくたく」
研 修 内 容	①スマート農業について ②中小企業等の支援について ③子どもの発達支援について
視察先面会者 又は講師名等	①由仁町産業振興課長 関澤和之氏 株式会社チュプチニカ 中川善教氏 ②公益財団法人 室蘭テクノセンター 専務理事 村松隆三氏 ③子ども発達支援総合センター 地域支援課長 吉田亜希子氏
備 考	

※ 相手方から收受した資料の写しを添付してください。

## 視察研修成果報告書

令和5年8月18日  
議員氏名 鈴木良和

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

### 記

- 1 期間 令和5年7月19日（水）～7月21日（水）
- 2 視察先 北海道夕張郡由仁町・室蘭市・札幌市
- 3 視察の種類 会派視察研修（想政会）
- 4 視察の成果等

7月19日（水） 由仁町 表敬訪問

友好都市由仁町の松村町長、後藤議長との会話の中で若者たちによる交流を今以上活発にしていくことを約束した。

「スマート農業について」と「チュプチニカの事業について」

「農業」＋「先端技術」＝「スマート農業」 ロボット、AI、IoTなど先端技術を活用する農業。ドローンの活用方法、操作技術を学ぶ施設のチュプチニカ。

ロボットトラクター、スマホで操作する水田の水管理システムなどの活用により作業を自動化し、人手不足を解消またドローン衛星によるセンシングデータや気象データのAI解析により農作物の生育や病虫害を予測し高度な農業経営が可能にするため。将来の農業スタイルが由仁町から全国に広がっていかれることを期待する。

7月20日（木） 室蘭市

室蘭テクノセンター「地域中小企業等の産業支援について」

室蘭地域の中小企業振興を図る中核的支援機関であり、地域に根づく中小企業等に対して様々な案件・課題への解決策をワンストップで提供し、共に伴走しながら地域を活性化する事を目標とする。

テクノセンターの支援事業としては・技術、製品開発等支援・産学官金連携支援・中小企業支援本市においても、ものづくり企業を広くPRする事により販路の開拓、新たな企業間連携を促し産業振興を図っていかれることを期待する。

7月21日（金） 札幌市

子ども発達支援総合センター「ちくたく」

医療機能と福祉機能を併せ持つ複合施設

「ちくたく」の由来は心・知を育む（知育）、体を育む（体育）をかわいらしく表現した名称

ちくたくの7つの構成施設

医療部門として、子ども心身医療センター（診療所）、発達医療センター（診療所）

入所施設部門として児童心理治療センター「ここらぼ」（児童心理治療施設）、自閉症児支援センター「さぼこ」（福祉型障がい児入所施設）、福祉型通所施設「かしわ学園・はるにれ学園」（福祉型児童発達支援センター）医療型通所施設は「ひまわり整ぎ園、みかほ整ぎ園（医療型児童発達支援センター）

自閉症児支援センターについて

施設の理念は子どもと家族が安心できる環境で、その子らしさを尊重し、笑顔溢れる育ちを支援する。その中心となる支援の柱は生活支援・余暇支援・学習支援・発達支援・家族支援・地域支援

医療部門が連携されたこのような施設を視察できたことは、全国的にもまれなケースであり理想的な施設であることを感じた。国が先導していかなければならない事業である。

最後に3日間にわたる関係各位感謝を申し上げ、視察報告といたします。

## 視察研修成果報告書

令和 5年 8月 9日

議員氏名 山中謙治

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

### 記

- 1 期 間 令和5年 7月19日（水）～令和5年 7月21日（金）
- 2 視察先 北海道 由仁町、室蘭市、札幌市
- 3 視察の種類 想政会 会派視察研修
- 4 視察の成果等

●7月19日（水）北海道由仁町 「スマート農業加速化の取り組みについて」

農家戸数及び農業就業人口は、年々減少を続け、農業従事者の高齢化が進行するとともに、後継者不足が深刻化しており、産地の生産基盤が脆弱化している。

このような状況の下、農業経営を継続に維持・発展させていくためには、ドローンや生産性の向上、高品質の農産物生産を図っていくことが必要と考えた。

公益財団法人北海道市町村振興協会「先駆的調査・実証プロジェクト推進事業」を活用し、由仁町の基幹作物である水稻におけるドローンによる農薬散布の安全性の確保策及びドローンセンシングを用いた効率化と生産性の高位安定について検証を行った。

実証事業の実施にあたっては、由仁町産業振興課、町内農業者、農業関係機関及び農業関係機械業者で構成・設立した「由仁町スマート農業加速化調査研究会」を調査研究組織と

して実施した。

導入効果の検証にて、ドローン導入前と比較して大幅な作業工数の低減、工数の低減により人件費削減が可能であることが示された。

スマート農業機械は個人での導入は負担が大きく、農林水産省「スマート農業産地形成実証」の補助金を活用し、複数地域間における機器シェアリングに労働費削減及び農業収益向上に取り組んだ。

検証の結果、①気象情報に基づくスケジューリングによる機器の共有により、機器経費の削減 ②機器の時期別シェアリングにより、労働費の削減 ③可変散布及びUVAスポット散布による生育不均一性の改善及び肥料投下量削減により、個別技術導入の効果に加えて、収穫量と販売額の増加により、農家収益が向上している。

また、農業生産活動の継続に向けた前向きな取組みを支援するため、「生産性向上加算」(R2年度～R6年度)を新設し、地目にかかわらず3,000円/10a、上限額200万円/年度を支給しており、町内13集落のうち、7集落でドローンによる防除作業を共同化している。

## ●所見

世界的な食糧不足、農業従事者不足を考えると、碧南市においても将来検討が必要になる考えます。

先進地域の取組みと参考にして、碧南市の身の丈にあった農業施策と検討して頂きたい。

## ●7月19日(水) ㈱チュプチニカ 「ドローン技術の取組み視察」

碧南市に本社のある日進工業の子会社。

北海道の基幹産業は農業であり、地域産業にIT技術の活用により、貢献している。

主な事業内容は農業用や産業用ドローンによるセンシングシステムの確立、後付け農機操縦システムによるスマート農業支援と安心の産業動物監視システムの開発と活用となる。

今回、研修とドローン等の操縦方法や活用方法を研修した。

## ●所見

今後、農業従事者の減少が予測されるので、IoTを活用した非接触による作業工数削減など効率が高く、収益性の良いスマート農業システムが必要となると思います。

## ●7月20日（木） 公益財団法人 室蘭テクノセンターの取組みについて

室蘭地区（室蘭市、登別市、伊達市）には多彩な産業の集積と地域資源があり、高度な技術力や研究開発力を持った創造性に富んだ中小企業が存在し、これらの企業がそれぞれの分野で知恵を絞り、あるいは異業種企業や大学や金融機関と連携して、新製品等の開発、航空機産業などの成長分野への参入にチャレンジしている。

室蘭テクノセンターは室蘭地区の中小企業振興を図る中核的支援機関であり、中小企業に対して様々な案件・課題への解決策をワンストップで提供し、ともに伴走しながら室蘭地区の活性化に努力している。

また、ものづくり創出支援事業、産学官連携支援事業を通して、新商品開発、販路開拓、人材育成に努めている。

毎年テクノだよりを発刊して賛助会員に対して年間の活動実績を報告している。

地域中小企業の市場開拓等の取組みとして、補助金申請、現場の改善、コーディネーターとともに新規事業や新商品の開発支援を行っている。

今、JERAの子会社とともに水素の研究を進めているとのことである。

ただ、当センターの抱える問題として、国・県・市の補助だけでは財源が厳しく、自主財源確保が必要とのことであった。

## ●所見

公益社団法人として、産・学・官連携の橋渡しを行っており、非常に有意義な役割をはたしていると思われる。

今後も産業発展を継続していくためには産・学・官の連携は不可欠である。

今回の視察で核となる機関の必要性を強く感じた。

碧南市においてもマネージメントを行う組織が必要と思います。

## ●7月21日 札幌市子ども発達支援総合センター 「ちくたく」

札幌市子ども発達支援総合センター「ちくたく」は多様な視点による適切かつ高度な支援、関係機関との連携による札幌市全体の支援体制向上を目的として医療機能と福祉機能

を併せ持つ複合施設として開設された。

「ちくたく」は、医療部門として（子ども心身医療センター、発達医療センター）があり、入所施設部門として（児童心理治療センター“ここらぼ”、自閉症児支援センター“さぼこ”、福祉型児童発達支援センター“かしわ学園”、“はるにれ学園”、医療型児童発達支援センター“ひまわり整肢園”7つの施設で構成されている。

支援の対象となる子どもは身体機能面・運動発達面や精神発達面・環境適応面（虐待等）に問題がある子どもたちであり、入所希望者は多いが、人員不足、対応の複雑化の為、新たな受入が出来ないとのことであった。。

医療部門には児童精神科、小児科、整形外科、耳鼻咽喉科、眼科があるが、特に児童精神科の医師不足の悩みがあるとのことであった。

「ちくたく」は医療・福祉の一元化総合施設であり、情報交換がしやすくスキルアップにつながっているとのことであった。

## ●所見

「ちくたく」は元々病院であったところを子ども発達支援総合センターに改装して開設された。

医療部門、入所施設が同居しており、情報の一元化と敏速で正確な対応が可能となり、効率の良い形態だと思う。

当市も今後、複合施設建設の場合には関係性や効果を検討して考えて建設すべきと考える。

# 会派 視察 成果報告書

新美交協  
作成者

会派名：想政会

日程： 令和5年7月19日 14時より

場所： 由仁町庁舎及びチュプチュニカ

「由仁町のスマート農業」について

\* 農業者の高齢化に対応した農業

ドローン活用によりスマート農業の加速化

農薬散布、工数低減、人件費削減 それぞれ50%以上

空撮により収量 変化 確認

労働費削減ー 農家 収益、複数地域間における機器 シェアリング

農水省「スマート農業産地形成 実証」を活用

ドローン散布により 生育不均一性の改善及び 肥料投下量 15%削減

ロボットトラクター、自動アシストコンバイン、ドローン活用の3点を中心である

町内13 集落 協定のうち7集落協定でドローンによる防除作業を 共同化している

「チュプチュニカ」ー ドローンで 農業への活用を図っている

ドローン 実習の学校 が展開されている

ドローン 実地体験をした。

# 会派 視察 成果報告書

新美文陽  
作成者

会派名：想政会

日程：令和5年7月20日 10時30分より

場所：公益財団法人 室蘭テクノセンター

専務理事 松村 隆三 総務課 主管 堀井剛志

「中小企業力向上支援事業」

元々 重厚 長大産業の町である。日鉄、函館ドッグ、ジェネックス（現在は石油備蓄）  
大手に頼ってはいはだめ

経済界も一緒になり 中小の生き残る道 模索

昭和61年に設立 予算7000万円

中小企業の技術、経営、特許、製造現場改善

航空機部品に取り組む

5社で M A S - N E T を組み始めるがコロナで発注が減り 苦労している

## \* DX 推進支援事業

技術者が集まらないため デジタルツールを活用した ビジネス変革を促す

先端技術導入診断事業

IoT 導入促進支援事業

訪問 ヒアリング

## \* 室蘭 地域産業支援連携協定に基づく中小企業支援

当センターと地域5 金融機関及び 室蘭工業大学で締結した国、道の補助金 採択に向けた申請 支援

## \* 民間事業者との連携協定に基づく中小企業支援

東京海上日動火災保険と室蘭 地域 新入社員合同研修会（参加者19名）

社員のライフサイクル等の勉強もしている

テーマ「健康経営が人材採用、定着及び企業経営にもたらす効果」

東京海上にやってもらう

## 令和5年度の注目 事業

### 1 成長 産業参入支援事業

カーボンニュートラル推進セミナーの開催

水素注入 合金ー 風力発電

GX 推進セミナーの開催

### 2 DX 推進事業

先端技術導入診断事業

ロボット、IoT を導入し生産性の向上を目指す

水素を各 家庭に送り 生活に利用できるように を目指している

酸素を利用した養殖事業（福岡のふぐ）

洋上風力関連企業の室蘭 利用（セップ船）

センターとしては人材が足りない。規模を広げたいが事業として難しい。空き工場を利用したい。サテライトオフィス貸出。研究に利用してもらう。

国、道の実証事業の取り組みにより資金の確保をしたい。大学生、高校生に地域に残ってもらえる工夫が必要。

大学の存在は 大きい。

- 3 昔からある団地が高齢化により住民の足がない  
スマホでタクシー 相乗り を始めたが 高齢者がスマホを使えなくて コールセンターに頼ることになり人件費が高くなり事業としてできなくなってしまった。

# 会派視察成果報告書

新美文陽

作成者

会派名：想政会

日程：令和5年7月21日10時より

場所：札幌市保健福祉局「子供発達支援総合センター」

地域支援課長 吉田 明子

「ちくたく」

子供の状況に応じた適切な支援につなぐ

施設内の各機能が連携し、より総合的かつ高度な支援を目指し、保険、医療、福祉、教育の機関との連携により支援体制の向上を図る

平成27年4月 設置

子供 心身医療センター（診療所）

心身発達の遅れ

障害が疑われる 子供

心に悩みを抱える子ども

などを医学的に診断し 心理療法、精神科デイケア、リハビリ保育、家族支援等を行っている

\* 児童心理治療センター”ココラポ”（児童 心理治療施設）

心の悩みにより 地域、家庭での生活が困難な子供が対象

\* かしわ学園（福祉型児童発達支援センター）

単独 または 親子で通園し 基本的な生活習慣や集団生活への適用などを通じて 早期療育を行っている

\* はるにれ 学園（福祉型児童発達支援センター） 市内 別施設

児童福祉総合センター内にある かしわ学園 同様に 就学前時の早期療育と各種相談支援を行っている

\* 発達医療センター（診療所） 市内 別施設

児童福祉総合センター内にある医療機関である

\* 自閉症児 支援センター ”さぼこ”（福祉型障害児入所施設）

個別的な支援計画に基づく日常生活スキルに関する支援を提供し、子供の状態改善を図る 家族の都合で 短期入所の支援も

\* ひまわり 整肢園（医療型児童発達支援センター）

親子で通所し、保育 やリハビリなどを総合的に早期療育を行っている

\* みかほ 整肢園（医療型児童発達支援センター） 市内 別施設

ひまわりと同じことを行っている

医師が小児科で3人 非常勤 が1人 精神科で2人 非常勤で6人 整形外科で非常勤 1人 耳鼻科で1人 眼科で1人確保しているが大変充実していると思うが足りないという話でありました。 ”さぼこ”を施設内で見ました。小中高 全員で10名で6名が高校生でありました。施設で暮らしている。各自 一人一人を大変 細かく見ていると思いました。横断的に関連部署が連携し 大変有効であると思う。

# 視察研修成果報告書

令和5年8月18日

新田 拓治

議員氏名

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

## 記

- 1 期間 令和5年7月19日（水）～5年7月21日（金）
- 2 視察先 北海道夕張郡由仁町、室蘭市、札幌市
- 3 視察の種類 会派（想政会）
- 4 視察の成果等

### （1） 7月19日（水）

視察先：北海道夕張郡由仁町役場

研修項目：「スマート農業」について

説明者：産業振興課 関澤課長

#### ① 「スマート農業の加速化の取り組み」について

##### ア 由仁町スマート農業加速化実証事業の背景

- ・農家戸数や農業就業人口が年々減少を続け、高齢化が進行するとともに、後継者不足が深刻化しており、産地の生産基盤が脆弱化している。
- ・そんな状況下、農業経営を継続的に維持、発展させていくためには、ドローン等の先端技術を活用した「スマート農業」の現実的な実践導入により、省力化や生産性の向上、高品質の農産物生産を図っていくことが必要のため。

##### イ 事業内容

- ・町の基幹作物である水稲におけるドローンによる農業散布の安全性の確保策及びドローンセンシング（必要な情報を用意された手法や装置を使用して収集すること）を用いて効率化、生産性の高位安定について検証する。
- ・導入効果の検証を行う；農薬散布作業で、ドローン導入前後における作業工数の変化、工数削減による人件費の変化、安全性効果について検証。

##### ウ 効果

- ・ドローン導入前と比較して大幅な作業工程の低減、それによる人件費削減が可能であることが示された。

##### エ 複数地域間における機器シェアリングに労働費削減及び農家収益向上

- ・生産費の削減による利益確保を目指す。

- ・気象情報に基づくスケジューリングや機器の時期別シェアリング等により経費削減を図る。
  - ・自動アシストコンバインを導入し、それをシェアリングして、労働時間削減に向けた実証実験も実施
- オ 交付金を活用した取組み（令和2年度～6年度）
- ・単価：3,000円/10a、上限：200万円/年度
- カ 今後の展望
- ・ドローンを柱に活用したスマート農業を推進する。
  - ・地域人材のレベルの向上と広範化
  - ・これまでの成果を「由仁町オリジナルのスマート農業標準書」として、更新を重ね、他地域においても参考、活用が可能となるよう取組みを推進して「身の丈スマート農業」の実現を図る。

② ㈱チュプチニカでの現地視察

- ・この会社は、碧南の日進工業㈱出資の企業（当初は自動車部品）
- ・現在は、ドローンを開発し、スマート農業に活用、運用するとともに地域活性事業等を展開
- ・ドローンフェスティバル、操縦士訓練等実施

【所感】

碧南の企業が由仁町でドローンを開発、生産して、地域とともに地域農業の活性化を図り、効率化や高収益化に貢献していると知って、大変誇りに思いました。是非、全国の農業の発展に大きく寄与することが期待できますので、頑張ってくださいと思います。

(2) 7月20日（木）

視察先：公益財団法人 室蘭テクノセンター

研修項目：「地域中小企業等の産業支援」について

説明者：専務理事 村松 隆三 氏

① 室蘭テクノセンターの沿革、内容

- ・昭和61年11月に商工会議所、行政、企業で設立
- ・2.8億円の基本財産の運用益で事業展開するも、足りないので、市からの補助金を受けている。
- ・平成25年4月に公益財団法人になり、会議所会頭が理事長を務めている。
- ・企業、行政から人を派遣
- ・職員は11名。正規職員：2人、派遣：1人、他は臨職（新たに企業OBを4名採用し、中小企業の困りごと等のコンサルティング、コーディネートや指導を行っている。）
- ・予算：7,000万円弱
- ・国、県、市の補助金を受けて運営しているが予算が足りない。自主財源をなんとか確保したい。そのため、既存のガス配送網を活用した小規模需要家向け低圧水素配送の構築や洋上発電、燃料電池等を手掛けようとしている。
- ・収益のためにセンターの貸室事業を行っている。

② 支援事業

- ・ものづくり支援事業として、室蘭市、登別市に蓄積された技術や人材などの産業資源を活用し、新製品、新技術の開発、新事業の創出を促進するため、企業化技術研修まで幅広く対応し、一体化した支援を行うための助成制度を実施している。
- ・メニュー（15種）を色々揃えている。
- ・交通アクセスの悪い地域性を改善すべく交通弱者のための色々な制度の開発を行った。
- ・中小企業力向上支援事業として、各種支援制度の紹介及び申請書作成支援を行ったほか、相談内容によっては大学や研究機関等への仲介も行っている。
- ・その他、事業所が必要とするが、単独では対応や解決が難しい事案について、一緒になって解決するために幅広い情報提供や専門家等の人的支援も行っている。

#### 【所感】

市、商工会議所、企業等が中小企業の育成、発展、問題解決のためにこのようなセンターを創立したことに感銘を受けた。

「家貧しくして孝子出ず」と言われるが、地域の中小企業を発展、支援を目指してこのテクノセンターを立ち上げた方の先見性、洞察力は素晴らしいと思った。このような機能を持つセンターを是非本市でも創設して頂きたい。

特に、「各種支援制度の紹介及び申請書作成支援を行うほか、相談内容によっては大学や研究機関等への仲介をする。」というのは、どこも行っていないことだと思うので、今後提案していきたい。

#### (3) 7月21日（金）

視察先：札幌市子ども発達支援センター「ちくたく」

研修項目：「子どもの発達支援」について

説明者：地域支援課 吉田課長

##### ① 「ちくたく」について

- ・子どもの身体や心の発達、情緒面や行動面の問題に対して、医療・福祉の一元的な支援を目指すために、複数の施設が集まった複合施設
- ・対象の子どもは、身体機能面、運動発達面、精神発達面、環境適応面に障害や遅れがある子ども
- ・児童精神科、小児科、整形外科を持つ医療部門に加えて、児童心理治療施設、福祉型障害児入所施設の入所部門、就学前の子どものための通所部門として児童発達支援センター（医療型【かしわ学園・はるにれ学園】・福祉型【ひまわり整肢園・みかほ整肢園】）を備えている。
- ・地域連携室；ちくたくの総合相談窓口で、施設医療間の内部連携や連絡調整を行っている。また、内外むけの研修会を開催
- ・医療と福祉の一元化のメリットとしては、より専門的な意見を聞きたいときに同じ建物にあるので連携できるし、個人スキルが上がる。スピードも速い。
- ・初診者数が減少傾向で、これは医師不足による。
- ・施設の維持必要経費は年間5億円、収入は4億円で▲1億円で、人件費は150人で▲10億円。大きな負担となっているのが悩みとのこと。

- ・市民病院との医師の人事交流はないとのこと。

【所感】

事前研修で、碧南の「にじの学園」について福祉の担当者から話を聞いて行ったが、コンセプトがまず医療から始まった点を含めて、施設の全体規模や人員、予算規模等は流石県庁所在地と思わせる内容であった。

障害を持った子、発達支援が必要な子、就学前、そして就学後も医療的な支援と生活支援を含む全面的な支援体制が構築されているように感じた。

《総括》

今回も夫々の視察先で本市にない先進的な取り組みや新しい取り組みのご教授を受けることができ、大変ありがたく思いました。

何かしら本市の市政発展に生かせたらと思いました。ありがとう。

## 視察研修成果報告書

令和5年 7月 30日

議員氏名 小林 晃三

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

### 記

- 1 期間 令和5年 7月19日（水）～令和5年 7月21日（金）
- 2 視察先 北海道由仁町、室蘭市、札幌市  
「スマート農業について」  
「地域中小企業等の産業支援について」  
「子どもの発達支援について」
- 3 視察の種類 想政会 会派視察研修
- 4 視察の成果等

7月19日（水） 由仁町 「スマート農業について」

青年友好都市である由仁町に表敬もかねて行政視察しました。

由仁町では農業就業人口の減少、農業従事者の高齢化、後継者不足により産地の生産基盤の脆弱化が進みつつあり、農業の継続的な維持、発展には先端技術の活用が必須となった。そこでドローンのような先端技術を活用した「スマート農業」を実践導入し、生産性の向上、高品質の農産物生産を目指している。

令和2年からスマート農業加速化の実証事業を行い、使用機材の選定からドローン飛行計画のソフトウェア、農薬散布作業調査、運用における標準マニュアルの作成、効果の検証をおこなってきた。令和4年からは複数地域間における機器シェアリングに労働費削減及び農家収益向上プロジェクトとして気候情報の共有における機器のシェアやロボットトラクタ、自動アシストコンバイン等のシェアを行い個別導入した場合に比べて機器経費の削減を目標にする。

所感：広大な農地を有効に活用するためにドローンのような先端技術が必須であると感じた。また、ドローンによる農薬散布だけではなく気象情報や、作付け時の生育不均一性の改善や収穫量の向上にも効果的であると思いました。碧南市においても農地の計測や生産性向上に役立てることができるのではないかと考えます。また、センシングUAVやロボットトラクタ、自動アシストコンバイン等の先進技術導入によって農業の活性化

も見込めるとおもいます、しかしながら、機器購入には多額の費用が必要になってくるので由仁町で行っているような機材のシェアリングの仕組みを検討していきたい。

7月20日(木) 室蘭テクノセンター「地域中小企業等の産業支援について」

公益財団法人 室蘭テクノセンターにおいて地域の中小企業支援について視察を行った。室蘭テクノセンターは産・官・学・金の連携の中核であり、様々な産業支援を行っている。ものづくり創出支援事業では新製品、新技術の開発、新事業の創出促進のため新分野への展開、技術研修などの助成をしている。

所感：行政・企業・大学・金融が連携して産業支援を行っていてその仲介や相談を室蘭テクノセンターが行っているのは地域の産業活性化に役立っていると感じた。特に企業と工業大学、企業と金融との連携が図れるということは地域全体としての強みになると感じた。碧南市においても産業連携は図れていると思うが、室蘭テクノセンターのような連携の中核となる組織体があるとさらに地域産業が活性化すると思います。また、県内外の工業大学等との連携も進めていきたいと思いました。

7月21日(金) 札幌市こども発達支援総合センター ちくたく  
「子どもの発達支援について」

札幌市の子ども発達支援総合センターにおいて視察及び施設見学をした。

子ども発達支援総合センター”ちくたく”は子ども心身医療センター、児童心理治療センター、自閉症児支援センター、かしわ学園、ひまわり整肢園、地域支援室があり、外部に発達医療支援センター、はるにれ学園、みかほ整肢園がある。

多様な視点による適切かつ高度な支援の提供と関係機関との連携による札幌市全体の支援体制の向上をコンセプトとしている。

医療機能と福祉機能を併せ持つ複合施設。

所感：総合支援センターとして医療や福祉の連携がその場で行えるのは子育てに悩む保護者にとっては有益であるし、様々な問題を抱えている子ども達にも手厚い支援が行えるのは総合支援センターならではだと感じた。碧南市においても児童発達支援ネットワーク事業等で保護者支援や支援者のスキルアップを行って手厚い児童発達支援をいただいているが、課題は様々、支援の方法も様々であり更なる向上を目指すためにも情報収集を怠らず碧南市に合った福祉医療制度を引き続き構築していきたい。

## 視察研修成果報告書

令和5年8月18日

議員氏名 伊田 充夫

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

### 記

- 1 期間 令和5年7月19日（水）～令和5年7月21日（金）
- 2 視察先 北海道夕張郡由仁町（及び株式会社チュプチニカ）  
公益財団法人 室蘭テクノセンター（室蘭市東町4-28-1）  
札幌市子ども発達支援総合センター「ちくたく」
- 3 視察の種類 想政会会派視察
- 4 視察の成果等  
由仁町役場（7月19日）  
「スマート農業について」
  - ・スマート農業とは、ロボット技術や情報通信技術（ICT）を活用して、省力化・精密化や高品質生産を実現する等を推進している新たな農業のことである。
  - ・由仁町の現状は、農業戸数及び農業就業人口が、年々減少を続け、農業従事者の高齢化が進行するとともに、後継者不足が深刻化し、産地の生産基盤が脆弱化している。
  - ・この現状の下、農業経営を継続に維持・発展させていくために、ドローン等の先端

技術を活用した「スマート農業」を現実的に導入し、省力化や生産性の向上、高品質の農産物生産を図ることが必要である

・令和2年6月～令和4年2月の間、由仁町内農地（中山間地及び平坦地）において、基幹作物である水稲における「ドローン」による農業散布の安全性の確保及びドローンセンシングを用いた効率化と生産性の高位安定について検証している。

（※ドローンセンシング：ドローンにセンサーを搭載し、地上を測定すること。）

・ドローン導入効果の検証では、作業工数の変化、工数削減による人件費の変化が見られた。例えば、令和2年度において、ドローン導入前の工数が「274.3」に対し、ドローン導入後の工数は「101.4」となり、63.0%減少している。また人件費の比較では、ドローン導入前が「411,500円」であったのに対し、ドローン導入後は「152,100円」となり、63.0%減少している。大きな効果が実証されたこととなる。

「所感」

スマート農業、ドローンの導入での効率的農業経営は、大規模農園に適しており、由仁町に適していると感じた。令和2年度からの取組で、まだ新しいので、今後の研究・検証でスマート農業の実効性が図られると感じた。

株式会社チュプチニカ（7月19日）

「スマート農業等について」

・当社は、平成29年、由仁町の三川小学校の閉校にともない、碧南市の日進工業（株）が三川小学校を利用してすることとし、設立された会社である。

・当社は、スマート農業（農業IoT）事業を展開し、産業ドローンを販売している。

・農業ドローンでは、農薬散布・センシングなどを行っている。

（※センシング：センサーを利用した計測・判別を行いこと。）

・ドローンスクールを運営しており、国土交通省認定の小型無人機技能スクールである。卒業生は170名以上おり、受講生の9割が由仁町はじめ周辺4町に関連しており地域貢献している。

・ドローンを使った地域社会貢献活動実績として、由仁町教育委員会、由仁町、栗山町教育委員会、碧南市教育委員会、碧南商工会議所などがある。

「所感」

当社は、由仁町と連携し、由仁町のスマート農業に寄与するとともに、ドローンやプログラミングなどを通して地域貢献している。由仁町にとって、スマート農業を推進

するに当たり、大きな力となっている。

公益財団法人 室蘭テクノセンター（7月20日）

「中小企業等の支援について」

- ・室蘭テクノセンターは、室蘭地域の中小企業振興を図る中核的支援機関である。
- ・当センター根付く中小企業等に対して様々な案件・課題への解決策をワンストップで提供することに特徴がある。
- ・当センター、昭和61年に、市の補助金や中小企業の出資等2億8,000万円で設立された。平成25年に、公益法人へ移行し、現在、社員11人（理事9人、監査2人）で、年間予算は、7,000万円である。
- ・当センターが行う技術・製品開発等支援事業では、起業化から新分野への展開、技術研修まで幅広く対応し、一体化した支援を行う助成制度の活用をサポートを行っている。ここまで踏み込んだサポートをする機関は、情報提供から実際の助成に至るまで行ってくれることから中小企業にとっては、大変、役立ち、企業の事業展開の意欲にも繋がると感じた。
- ・当センターが行う産学官連携支援事業では、室蘭工業大学と企業との産学連携の促進と、外部資金獲得やコーディネートを行っている。事業内容としては、意見交換・情報交換、大学からのシーズ提供、セミナーの開催など活発に交流している。

（※研究シーズ；科学技術の種（シーズ）、将来花開き実を結ぶ可能性の高い研究のこと）。

- ・当センターが取り組んだ事例として、高齢者の買い物等の移動手段の課題解決、マースの取組がある。タクシーの相乗り等を試みたが、高齢者がスマートフォンを持っていないことから、電話でコールセンターに予約をする手法だとコストがかかる、といった問題から、現在は、マースの取組はとん挫しているとのことであった。このようなことまで、当センターは、考え、地域の問題解決に取り組んでいることは、素晴らしいと思った。

（※マース（MaaS:Mobility as a service）地域住民の移動ニーズに対して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括して行うサービス）

「所感」

当センターは、技術・製品開発等支援、産学官連携支援等、また補助金の獲得など幅広く中小企業支援を行っている。この地域の産業の発展に大きく寄与していると感じた。このような取り組みをする公益法人があると中小企業の経営者にとっては、補助金等の資金面、技術開発のアドバイスなどを得て、発展的な事業展開をする助けとなり、企業の経営意欲にも繋がると感じた。また、地域企業・産業の活性化にとって、大きく役立つと感じた。

札幌市子ども発達支援総合センター「ちくたく」（7月21日）

「子どもの発達支援について」

- ・支援施設「ちくたく」は、元々病院だったこともあり、各支援施設が整然と各部屋に収まり、効率的に使用できると感じた。
- ・当施設は、子どもの身体や心の発達、情緒面や行動面の問題に対して、「医療」・「福祉」の一元的な支援を目指しており、複数の施設が集まった複合施設である。体でいえば、身体機能面・運動発達面、心でいえば、精神発達面・環境適応面をフォローしている。この点からして、一つの施設で、体と心をケアできるというメリットがある。
- ・医療面では、「子ども心身医療センター（診療所）」があり、原則18歳未満の子どもが対象である。診療科目には、児童精神科、小児科、整形外科、耳鼻咽喉科がある。診療希望者が多いが、「医師不足」で対応がぎりぎりのところであるとのこと。医師不足が課題で、解消をしていきたいとのことであった。碧南市民病院もそうであるが、全国的な「医師不足」は、大きな問題である。
- ・施設利用者は増加傾向である。医療では、平成29年で約6,500人、令和4年で約8,700人、小児科では、平成29年で約7,000人、令和4年で約8,500人となっている。
- ・当施設以外に、市内600施設があり、当施設が後方支援を行っている。
- ・当施設は、市の施設であり、人事異動がある。そのため、アドバイスできるようになったスタッフが数年で異動してしまうことが、問題点としてあるとのこと。

「所感」

「医療」・「福祉」の一元的な支援、複数の施設が集まった複合施設は、あまりないと思う。施設利用者にとっては、体・心の両面からのサポートを一つの施設で受けられることは、助かると思うと同時に、大きなメリットであると思う。